

「くき、ラブホつて、いつなつてるんだ。ほら、入る、入る」

「……今日のデート楽しかったね。んふ、キミの今日着てる服、体にピッタリ張り付いて、お腹も脇も太もももバツチリ見えて、とっても似合つてるよ」「よく似合つてるよね。ドスケベ痴女つて感じで。ね、デート中に色んな人に見られてどうだつた?」

「すれ違うヒトみんな、キミを見てたよね。ちょっとスカートの裾が上がつただけで見えちゃうぐらいミニなのにさ、何度もショーツの中で勃起して♡」「履いてるショーツも女の子のヤツだし、れろちゅば、はふ、んふう、んれろお……見られたら大変なことになつてたよね」

「結局、キミが我慢できなくて、物陰でオナニーするの許可したけど、近くのヒトに雰囲気と匂いで絶対にバレてるっぽいし♡」「ね、なんとか言つてよ」

「ほら、今もお耳レロレロされて、オチンポがんばんだよ♡ それに乳首もおつ立てちゃつて。服の上からでもわかつちやうよ、ほらあ♡」

「んふ、グリグリつて触つたら、今もビクンてお胸震わせて、オス乳首、いやらしく反応しそぎ♡ ね、こちに向いて。ミニスカから覗いてるエッチなショーツの膨らみ、すりすりしてあげる」「んふ、ちょっとお尻浮かせて、ハアハアしそぎだつて。すりすりすりすりしてあげる」「んふ、オチンポフル勃起して、ショーツのクロツチにエッチな染み、できちゃつてるよ」「このまま、ショーツをずらして、あん、露出したオスマラあ、扱いてみせてよ」「その代わり、ボクの自分のふたなりチンポ、んん、ほらあ、いつぱいシコシコするから♡」「んふ、くふう、一人で一緒にシコシコしながら、あつ、ああつ、いつぱい気持ちよくなろう♡」「このまま、ショーツをずらして、あん、露出したオスマラあ、扱いてみせてよ」「キミのアヘつた顔みながら、ん、んん、オナフ、気持ちいいつ♡ ふひ、くひッ♡」「はあはあ、オチンポ見せあいながら、シコるの、ふひ、くひ、んじ、いじ、いじのう♡」「セックストは違つて、はあはあ、すつゞくいけない感じで、シコシコ、感じるう、んあ、んああつ♡」「ね、このまま一緒に射精しよう。ボクの精液、キミにぶつかけるからあ、キミもボクめがけて、発射してえ、んあ、んああつ♡」

「はあはあ、オチンポの中、上がりてきてえ、出そつ……亀頭の敏感などいろ、指で輪つか作つて、集中的に、シコシコシコ、シコシコシコ♡」

「ふひ、くひ、もう出るう……♡ ほらあ、秒読みするからう、3、2、1、  
「や、出るうんッ♡ ゼロおつ♡ おつ♡ おつ♡」

「んんん、はあは、一緒に出ちゃつたね♡」

「眷属くんにぶつかれながら、あふ、はふう、ボクもぶつかれて、うれしい♡」

「これだけでも妖魔に堕ちて、良かったと思うよ♪、じゃ、ショーツを脱いで、四つん這いになつて。そのままボクにお尻を向けてよ」

「んふ、そうだよ、ケダモノみたいな格好で、ほら、ボクのオチンポ欲しいよね？」

「だったら、おねだりして見せて。アナルに指を添えて、くぱあ、だよ♡」

「妖魔に堕ちたメスアナルなら、おまんこみたいに拡がるから、思い切り、くぱあ、してみせて」

「んふふふ、はあ、ピンク色のアナル奥まで見えて、ドスケベにもほじがあるね」

「じゃあ、浅ましくおねだりしてきたキミのお尻、んんん、犯してあげる……はあは、ほら、奥までズブズブって入つて、S字結腸に、ボクのカリが当たつてるの、んん、わかる？」

「むつとリラックスしていいよ。四つん這いのままで鏡を向いてアヘつた顔、ボクに見せてよ、んん、んん♡」

「このまま、お尻の中、ゆっくり混ぜながら、はあは、お耳も舐めてあげるね、んれろ、れろお」「れろれる、んれろちゅば、ちゅば、ちゅば、ちゅば、ちゅば、ちゅば、んふ、くふう、吐息もふく、ふく、ふう

～♡」

「ベロで、お耳の穴あ、いつぱひズボズボしながら、んちゅばちゅ、ちゅば、ちゅぼちゅば、アナル奥まで、ん、んん、ピストンしていくね♡」

「くふ、んふう、絡みつてくるオスマソンゴの粘膜う、エッチすぎて、ん、んん、腰振りい、激しくなつてはあは、お尻犯されて、エロい顔しすぎ」

「ほらあ、鏡見て、キミのアヘ顔、映つてるから♡ 口元緩んで、涎を垂らして、はあはしてるよね

♡ んふ、キミつてば、いつもそんなメス顔で、喘いでるんだよ」

「恥ずかしいマゾ、丸出しだよね、ん、んん♡ それでお尻ズボズボされるたびに、んん、ほらあ、今みたく口開けてえ、あ♪」を突き出してよがるんだから♡」

「むつと自分のマゾに自覚持つたほうがいいよ。それで、むつと無様に、情けなくアヘれ、アヘれつてば～♡ そら、そらそらつ♡」

「このまま鏡見て、いっぱいお尻、振りまくつて。出された瞬間の、アヘつた顔、見せてあげるから♡」

「んふ、そらそら、思い切りアナルかき混ぜて」

「はあは、このまま出してあげるね。眷属として、ご主人様のナマ射精つ、しつかり受け止めてよ」

「んうへ、んんんん——ツ♡♡♡」

「ほらあ、この顔だから、目を見開いたまま、背すじをそらせながら、だんだん緩んでく表情♡」

「んふう、だらしなく緩ませすぎで、ありえない顔♡ くすすす、はあは、でもボク、この顔、大好きい♡ んん、思わず、顔を近づけて、んちゅ、キスしちゃう♡ んちゅ、ちゅばちゅ、ちゅばう♡」

「肩越しにディープキスしながら、んれろれる、れろちゅる、お尻い、ねちっこズボズボしてあげるう♡」「

「あふ、はふう……まだ、これからだから♡ 今度はボクが仰向けになるから、んんつ、ボクのそそり立つたオチンポに上から跨つて。」

「うん、そうだよ。さつきみたいにアナルをくばあして、そのまま腰をゆづくりと落として♡」

「痴女みたいな女の子の洋服着てえ♡ 幼馴染のフタナリちゃんぽにだらしない顔でガニ股の恥ずかしい格好でまたがつての♡ キミらしくていいね」

「ん、んん、ボクのオチンポ全部、アナルまんぐで咥えこんで、はあはあ、エロすぎ♡」

「このまま腰を突き上げて、ん、んん、キミのケツ穴、混ぜ捏ねがらあ、感じさせてあげる、そら、そらそらう♡」

「あれえ、どうしたの？ 体動かしながら、自分で乳首いじつちやつてるんだ、くふふつ♡ 乳首コリコリしないと、気持ちよくなれないなんて……はあ～つ、じ～までマゾ男（お）なの、キミうてば」

「しかも、ガチガチにそり返つたチンポ先から、だらだらザーメン、溢れさせちゃつてるね♡」

「これ、先走り液つて量じやないし、まさか、前立腺ゴリゴリされて、くすり、とうとうん射精つて言うヤツ♡」

「もう、聞いてるの？」

「射精で蕩け切つた顔して、うわの空なの？ 別にいいけど、このまま、んんつ、キミにまた出したいくから、もっと動いて。ボクにキミのいやらしいスクワット見せてよ」

「限界まで腰振つて、跨つたままドスケベダンスして……眷属なら、ご主人様の命令、聞けるよね♡」「はあはあ、キミの浅ましいロデオで、ボクを気持ち良くしながら、乳首オナも続けていいよ」

「ん、んんつ、そうだよ。きゅつと締まつたオスまんぐ♡ いい、いいよ、たまらないつ♡」「キミを眷属にできよかつたよ」

「自分で乳首いじりしながら、腰をいっぱい振つてるドスケベなマゾ姿見てるんだからね♡」「ほらあ、もっとしつかり腰振つて♡ 勃起したオチンポ振り乱しながら、いやらしく動いて」

「デートで人間達にいっぱい見られていつもより興奮しちゃつてのかな？」

「おちんぽくっく振り回してとっても可愛いよ♡ んう、んううう、それじゃあ欲しがりの眷属くんのおしりにい♡ たっぷり出してあげる♡」

「騎乗位でアナル、ぐちゅ混せにされて勃起したクリチンポ、ぶるぶる震わせながら、ほらほらあ、イケつ♡ イケイケつ♡ メスみたいに連続でアクメつちやえツ♡」「ナマで出されて、メスイキつしちやええ——ツ♡ ♡ ♡ ♡」

「んはあああああ、マゾ眷属の尻穴にナマ種付けえくふ、んふう、気持ちよすぎい……あふあ、んふああ……んん、んんん、ボクがキミに出すたびに、そそり立つたオチンポ、ビクつかせて、先走り汁撒き散らさないでよ」

「んふふ、背すじのけぞらせながら、全身震わせて、キミつてば、完全にイっちゃつてるね」

「射精せずに、お尻でアクメつちやうなんて、それ完全にメスイキつてヤツだよね、くふくふう♪」

「ああ、ダメ。せーしに濡れてグチヨグチヨになって服きて　おしりからびゅびゅせーし溢れてるの見てるとまたムラムラしてきちゃつた」

「全部、キミのせいだから。責任取つてもらうよ」

「ボクが起き上がるから、今度はキミのほうが仰向けに寝て。けど普通に犯すんじゃないし、太ももをM字に割り開いて、ケツ穴を上にさらけだして——」

「うん、いいね。」

「マゾ眷属くんにはちんぐり返しが最高に似合うね♪」

「んう、んううう、このままガバガバに拡がったキミのアナル、上からいっぱい回して、ん、んん、あげるよ♪♡」

「はあはあ、使うほどにほぐれてキミのお尻、セックスのためだけのマゾ穴みたい」

「ほらあ、奥まで突いて、内臓まで響くピストン♪、いっぱいしてあげるね♪♡」

「もうイつて、わけわからなくなってるね、キミ。いいよ、キミのお尻まんこ、オナホづかいして」

「ん、んん、ボクだけ勝手に気持ちよくなるよ。マゾのことなんて気遣わなくていいよね」

「どうせ、ボクの性処理のためだけに眷属に変えたんだし。あはつ、これだけバカにされても、よがりまくつて、またイヽうとしてる、くふくふ♪」

「けど、もう今日は十分イつたよね?」

「最後はマゾ便器らしく、ボクだけを気持ちよくしてよ♡ そうそう、今日のデートの時も街のあちこちに異界領域を広げてといたからそれが育つて街を覆うのも時間の問題かな♡」

「はあ、はあつ、最後の仕上げはボクらの学校だけ♡」

「同級生も先生も、みんな、ボクらのドスケベなオモチャに変えちやおうよ」

「ん、んん、みんな、ボクらの性処理のためにだけ存在するんだよ。素晴らしいことだよね、あふ、はふう♡ そのことを想像しただけで高ぶつてえ、んあ、んああつ♡」

「もう、イクうツ、イっちゃいそうつ……♡ はあはあ、出る、出るうつ♡ んんんつ♡」

「はあ、はあつ……今度は、キミのお口にご馳走してあげる♡ あはは、犬みたいに舌出しておねだり♡ ほんとうにいいこ♡」

「んあ、んああ♡ んあはあああああ——つ♡ ♡ ♡ ♡」

「はあ、はあ……んう♡……全部出し切つちやつた♡」

「ん、んんっ、はあはあ……そ、うそ、ちんぽの奥に残った精子もきちんと吸い取つて　精子でべ  
ちょべちょになつて氣持ちよさそ、うな顔♡」

「またデートしようね♡ 今度はもっとエッチな衣装で♡ あー、それとも清楚なワンピースがい  
い? ふたりともノーパンのおそろいで♡」「

「あー、また勃起して♡ 堪え性のない眷属くんだ。いいよ、夜が明けるまでいっぱいかわいがつてあ  
げる。」